

オンライン国際シンポ

日米韓国際シンポジウム ―核兵器禁止条約発効後の課題と展望―での発言草稿

「参与連帯平和軍縮センター」コーディネーター

イ・ヨンハ

皆様、おはようございます。イ・ヨンハです。「参与連帯・平和軍縮センター」のコーディネーター（幹事）です。コロナ禍ですが、皆様健康にお過ごしであることを願います。まず最初に、核のない世界を目指して、さらにあらゆる核災害のない安全な社会を目指して活動している皆様に、感謝の意を表したいと思います。1月22日、核兵器禁止条約が発効する日から、核兵器の無い世界への更なる歩みが進められることを願っています。

朝鮮半島の平和プロセスは行き詰まった。

2019年2月にハノイで行われた、合意なき第2回米朝首脳会談以降、朝鮮半島での平和プロセスは実質的に停止しました。米朝間の対話が暗礁に乗り上げる一方で、アメリカ主導の朝鮮民主主義人民共和国（朝鮮）に対する国際的制裁はより厳しくなり、両国間での信頼構築は進まなくなりました。最小限の南北間の交流と協力の中断が持続化された後、意見の違いは極端に大きくなり、合意が一言も実行されない状況の中で、南北間でさえも不信が深まりました。

昨年6月、南北間の軍事緊張は、朝鮮へのビラ散布をめぐり、ついに衝突間際まで高まりました。2国間の軍事協定の効果まで、危機に陥りました。首脳会議の貴重な成果であった南北連絡事務所さえも破壊されました。金与正朝鮮労働党（統一戦線部）副部長と金ヨン Chol 副議長は韓国を「敵」と見做しました。現在ほとんどの協議と協力が停止しています。われわれが直面するコロナ禍や雨季（の大雨）、台風などの災害に対しても協力がなされませんでした。

もしアメリカならびに南北が2021年に合意に基づいた対話を再開し、信頼の構築ができれば、朝鮮半島情勢は深刻な対峙と敵視に戻ってしまうでしょう。単に過去に回帰するのではなく、新たな段階の軍拡競争と緊急事態が常態になるでしょう。

2021年、朝鮮半島の平和プロセスを再開させるために、出来る限りあらゆる努力を行われなければならない。

2021年、しかしながら、朝鮮半島の未来の平和は不確かなものにとどまっています。文大統領は1月11日の年頭演説で「南北の人々の生存と安全のために、南北の協力を通して到達しなければならないことがいまだ数多くある」と述べています。そしてコロナ禍への

対応から始めることを、提案しました。しかしながら、党第 8 回大会への報告において、金正恩総書記は南の軍備増強とアメリカの敵視政策を批判し、核心的な政治的軍事的問題が解決されない限り、核・ミサイル能力の強化する姿勢を堅持すると主張しています。彼はより向上した兵器の採用と（軍事）予算増額という文政権の政策を、平和協定の違反であると考えています。多様な協力の呼びかけは、彼の眼には、「最重要な事ではない」のです。

現時点での進展についての評価ですが、悪化した南北関係がいかなる改善も見せていません。バイデン次期米大統領は朝鮮への圧力と制裁の強化を示唆し、トランプ政権による合意を実行するかどうか、はっきりさせないままです。

しかしながら、状況は悲観しすぎるものではありません。朝鮮が党大会において強硬な姿勢を取る一方で、「現在の非常に悪い南北関係の解決が必要であり、対立を和らげる積極的な解決策を追求する」ことを明確にしているからです。また米朝関係について、「共同宣言の合意については、新たな米朝関係を確認したもの」と高く評価しています。バイデン次期大統領は、同盟相手（韓国）と国際社会の合意を、前任者よりも尊重することが、期待できます。また文大統領が昨年朝鮮戦争を終結させるという意志を表明したのは、さらなる肯定的な兆しです。

2017 年の危機を突破したような、朝鮮半島の和平プロセスの扉を開くという判断能力と決意が非常に強く求められています。韓国政府は朝鮮半島の問題は自ら解決するという決意の（実行の）ために、明確な土台を築かねばなりません。また、多様な回路を使って行う、対話と交渉のための条件を準備せねばなりません。最後通牒主義へ流れていくのを、相手の立場から考えることで押しとどめ、軍拡と相互威嚇の悪循環に終止符を打たねばなりません。アメリカの政策を支配している、圧力をかけるやり方を変えるように、働きかける努力がなされねばなりません。アメリカの論理と意見に自動的に従うのではなく、必然的に生じる違いをはっきりと明らかにし、問題を解決する民主主義的方法のための行動を、人々に示さねばなりません。

結局は、3 か国がこれまでの合意を尊重するのが、もっとも重要な事なのです。作り上げるのに苦労した合意は実行しなければなりません。シンガポール首脳会談の米朝共同声明は「相互信頼醸成が朝鮮半島の非核化を促進することができる」としています。バイデン新政権と朝鮮はシンガポールでの宣言を基礎に交渉しなければなりません。この中で両国政府は

- ・米朝の新たな関係の確立
- ・朝鮮半島での恒久的で安定した平和体制の建設
- ・朝鮮半島の完全な非核化

を合意しています。

南北政府が「朝鮮半島の完全非核化を追求するプロセスにおける密接な協力」について合意しているので、韓国は朝鮮とアメリカが交渉を進展させるように説得する努力をしなければなりません。

朝鮮半島の諸問題の解決は対話と協力により行われるべきであり、制裁と圧力ではない。

トランプ政権は 2018 年のシンガポール首脳会談から 2020 年前半期までに 18 回制裁を追加しました。副次的なボイコットを含めて、アメリカは、国連制裁よりはるかに強い、一方的な制裁を続けています。しかし歴史は「まず非核化、制裁緩和はその次」という方法は、朝鮮半島での核をめぐる紛争には適さないことを証明しています。朝鮮とアメリカは段階的相互履行と確認について合意すること、つまり信頼の構築が決定的に重要です。

南北間の、また米朝間の軍事的恫喝を即座に止め、威嚇を弱める具体的行動を取るべきです。

相手方を核、あるいは通常兵器で威嚇するすべての行動を止めなければなりません。文政権は朝鮮戦争を終結させる意思を明らかにし、対話を呼びかけていますが、その一方で軍備増強を止めていません。防衛予算は段階的軍備削減を確認した板門店宣言後も増加し続け、2021 年 53 兆ウォンに達しています。歴史的に見て、最高額です。これは朝鮮の GDP 総額を超える金額です。朝鮮に核とミサイルを放棄するように要求する側が、このような高額を通常兵器に投資している限り、説得力を持ちません。

軍備増強はより強い対抗する準備に繋がり、軍備を背景にした抗議は、更なる抗議を呼び起こします。いまこそこの悪循環を断つ時です。行き過ぎた軍事能力と防衛支出を維持している韓国とアメリカは、まず最初に、2 月末から 3 月初めかけて計画している合同軍事演習を中止し、軍事分野での信頼構築を促進すべきです。彼ら是对話と軍事行動が両立しないということを、また敵視政策を取り下げない限り、関係好転は可能ではないことを、思い起こさねばなりません。

さらに言えば、朝鮮半島での問題を解決する努力は、戦争と核兵器の脅威を除去する作業と密接に結びついて行われねばなりません。朝鮮半島の住民ほど軍備競争と戦争の恐怖の悪循環の苦しみにあえぐ人々はいません。朝鮮戦争関係国だけでなく、世界中すべての国が、軍事手段への特に核兵器への依存を弱め、地球レベルでのパンデミック、気候危機、自然（破壊）、経済危機で苦しむ人々への対策に集中すべきです。

朝鮮半島の完全非核化は、その地域一帯での核の脅威が除去された状態であるとされています。このことは朝鮮の「完全かつ検証可能で不可逆的な非核化」だけでは達成できません。韓国、日本、アメリカのすべてが依存する拡張抑止の除去が、この（朝鮮半島の非

核化) プロジェクトの任務のひとつです。「核のない朝鮮半島」は北東アジア非核地帯への飛び石でなければならず、また核のない世界への飛び石でなければならないのです。南北コリアはそのために、核兵器禁止条約に加盟しなければなりません。

70年で十分だ:「コリア平和アピール」

昨年、朝鮮戦争開始 70 周年を期して、韓国の市民社会グループと宗教グループは一緒にコリア平和アピールを始めました。これは朝鮮戦争の終結と、休戦から平和へということを求めるあふれるばかりの多くの声を、朝鮮半島を超えて世界から集めるという国際キャンペーンです。このキャンペーンは、1 億筆のコリア平和アピールの署名を、朝鮮戦争開始 70 周年の 2020 年から、休戦協定 70 周年の 2023 年までに集めて、朝鮮戦争を終結させ朝鮮半島での平和を実現させようというものです。3 年間にわたり、市民による平和のためのロビーイング、対話、行動、文化交流という多様な活動を追求します。すべてが朝鮮戦争を終結させるためです。

コリア平和アピールの要求内容は次の 4 つです。

- ・ 朝鮮戦争の終結と平和協定の締結
- ・ 核兵器と核の脅威の無い朝鮮戦争と世界の創出
- ・ 紛争を制裁と圧力ではなく、対話と協力で解決
- ・ 軍備競争の悪循環から脱して、人間の安全保障と環境持続性に投資

集めた署名は国連と朝鮮戦争に参加した国々、韓国、朝鮮、アメリカ、中国の政府に提出する計画です。関係国が朝鮮半島に平和体制を確立する方法に合意し、失敗無しに役割を果たすための圧力になることを希望しています。

50 の国際パートナー組織が現在コリア平和アピールに参加しています。朝鮮戦争の終結という目標を手に、参加グループはともに街頭やオンラインでキャンペーンを展開しています。誰でも韓国語、英語、日本語で準備されているウェブサイトから参加できます。アピール自体も中国語、フランス語、スペイン語、ドイツ語、ロシア語、アラビア語に翻訳されています。どうかこのアピールに参加して下さい。